

○台風第19号等の災害時の市町村職員、消防職員の声

地域	自治体名	自治体職員の声	消防署員の声
佐波伊勢崎	伊勢崎市	台風が接近すると、避難所開設に関する連絡、避難指示の発令するタイミング、SNSやメール等で情報提供、住民に対する支援策の確保など、関係各所との情報共有しなければならないことがたくさんあって大変でした。この準備が、市民の生命を守る大事な仕事だと思っています。日々改善を重ねながら、大きな災害に対応できるように働いています。	台風19号のときは、道路冠水、倒木、住家の床上、床下浸水の被害がありました。 消防隊は住民に避難所への避難を指示したり、家の中まで浸水しそうな時は、積み土のうをして浸水を防止する対応しました。 暗くなってからの避難、降雨中、強風中の避難はリスクが伴うので、状況を予測した早めの避難が大切です。
	玉村町	台風第19号のときは、利根川・烏川の水位が上がっていつ氾濫するかわからなかったため、町として初めてとなる避難勧告（当時）を出しました。避難所には1600人の人が避難をしました。	
高崎	高崎市	台風19号では、台風が高崎市を通過した日は、朝6時から夜12時まで、市民からの問合せや現場の状況把握に追われ、ほとんど飲まず食わずで対応しました。家や車が浸水してしまいましたが、死者はゼロでした。	強い勢力をもった台風や大雨が降り続くと、川があふれだしたり、山では土砂崩れが起こります。そのような時は、被害をできるだけ小さくするため、休日の消防隊員を呼び出し、人を増やし、市民の避難誘導や救命ボート、防災ヘリコプターを活用し救助活動を行います。また、行方不明者を探すための準備を整えています。
安中	安中市	各避難所には担当職員が1人配置されているが、開設準備や避難者の受け入れ、物資の配布など数多くの業務があり、避難者が増えると1人では対応しきれないので、他の職員の応援や地域住民の協力が必要だと思う。	
利根沼田	みなかみ町	台風ではなく、とつぜんの大雨が降り続いたため、役場で対応をしていました。町内では断水した地区があり、給水車で給水活動を行いました。避難所を開くのははじめてでした。	台風第19号のときは危険箇所の巡視や広報を行いました。また、各地で被害の通報があり、対応にあたりました。具体的には倒木や道路へ流出した土砂の除去、トタンの飛散防止処理、土のうによる浸水防止処理などを行いました。
桐生みどり	桐生市	台風第19号のときは、市内で洪水や土砂災害の危険性が高まっていたため、役所で対応をしていました。市内の様子を市長に伝えて、避難勧告をだすことになり、避難所をひらくなど大変でした。避難勧告も、台風で避難所をひらいたのははじめてでした。	
	みどり市	令和3年4月22日にみどり市東町沢入地区で発生した林野火災では、約40ヘクタール燃え広がりました。消防署や消防団の方たちの5日間にわたる懸命な消火活動のおかげでやっと火を消すことができました。自衛隊や群馬県のヘリコプターも出動して空からの放水も行いました。	

太田	太田市	台風第19号の時は、「利根は坂東一の川」で有名な日本屈指の大河川である利根川や市内を流れる河川が氾濫する可能性があるという情報が入り、避難情報の発令や避難所開設など、緊迫した現場となりました。自然の驚異をあらためて感じました。	
	大泉町	予想以上の方が避難されてきたため、職員は受け入れするのに精一杯で、高齢者や乳幼児連れの家族のための配慮ができなかった。限られた職員での対応のため、地域での世話役などを含めた避難所運営の訓練が必要と思う。(大泉町令和元年東日本台風検証報告書より)	
	館林市	令和元年東日本台風の時は、利根川の水位が上がって、いつ氾濫するか分からない危険な状況でした。住民の皆さんには、安全な場所に避難して、命を守る行動をとってもらったため、避難情報を出して、避難所を開設しました。そうしたことは初めてのことであった。	
	板倉町	令和元年東日本台風の時には、各学校に避難所を開きました。市民の皆さんから田んぼや道路、家の庭が水びたしになってしまっているという電話も多くもらいました。そのため、避難所での避難対応やまちの復旧が大変でした。	
邑楽館林	明和町	台風第19号では、町の避難指示に対し、4,000人を超える町民が避難所に避難をしたが、避難しない人も多くいた。万が一利根川が氾濫していたら、多くの犠牲者が出てしまっていたと思う。	
	千代田町	「台風第19号のときは、土手の上から利根川の水に触ることができるくらい水があがっていました。そのため、町としてはじめて避難指示をだすことになり、町に住んでいる人が約3,000人避難しました。」	
	大泉町	台風19号のときは、初めから規模の大きい台風と予想されていたことから、早め早めの体制で行動していた。利根川の増水に対しては、町長や職員間で情報共有がなされ、初めての避難指示の発令、避難所開設など実施しました。	
	邑楽町	台風第19号のときは、本町に大雨特別警報が発表され、いつ被害が起こるかわからなかったため、役場で対応をしていました。自主避難所を開くなど大変でした。	